

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	荒川区立尾久八幡中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	21
生徒数	98	89	87	4	278	

研究の概要

1 研究主題

生徒一人一人が輝く個性ある学校づくり - 基礎学力の定着を図り、個性の伸長を目指す -
--

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

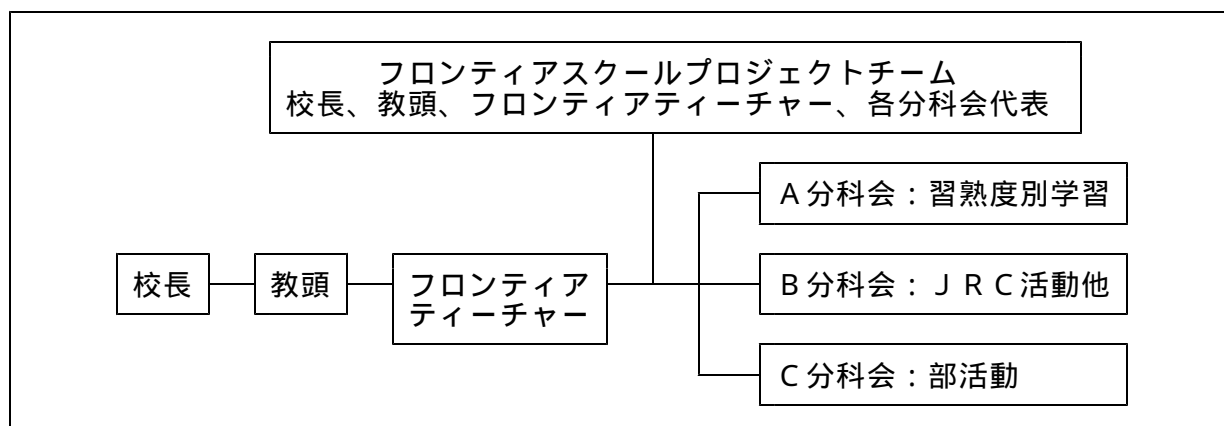
<p>全学年 英語</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語は中学校に入って初めて学習するが、学力差がつきやすい教科である。少人数での学習により、生徒一人一人に教師の指導がいきなりやすくなり、個に応じたきめ細かな指導を行うことができるため。 個々の生徒の興味・関心や習熟の程度に応じた少人数の学習集団を、学級の枠をはずして形成し、指導に当たることにより個に応じた指導の一層の充実を図る。さらに、生徒一人一人の実態に応じたよりきめ細かな指導により、「わかる」経験を通し、学習効果とともに学習意欲の向上を図る。 発展的・補足的な学習の充実を図り、確かな学力の向上を目指す。 <p>全学年 数学</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学は入学当初より学力の開きが大きく、学年が進むにしたがってその開きが次第に大きくなっていく。さらに、理解を深めている集団とそうでない集団に2分化する傾向があるため。 少人数による習熟度別学習により基礎・基本の定着を図るとともに、習熟の程度に合わせた学習を行うことや生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導により、数学の学習に対する意欲を高め、基礎・基本の徹底を図るとともに能力の伸長を目指す。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>生徒一人一人に基礎学力の確実な定着と個性の伸長を図るために、学力差を生じやすい数学と英語において、全学年で少人数による習熟度別学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の確実な定着だけでなく、能力や個性の伸長をめざす習熟度別学習の指導の方法 生徒自身による主体的な学習集団選択のための指導の在り方 確かな学力の構築の在り方の研究 習熟度別学習における指導と評価の一体化 少人数習熟度別学習を通して分かる喜びとともに、伸びる喜びを体感させる指導方法の工夫
--------	---

平成16年度	<p>基礎学力の確実な定着と生徒一人一人の個性の伸長を図るため、数学と英語において全学年で少人数による習熟度別学習を行うとともに、選択授業における指導の在り方を研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の確実な定着を図るため、能力や個性の伸長をめざす習熟度別学習の指導の方法 それぞれの学習集団に即した教材の開発 習熟度別学習における指導と評価の一体化 課題別学習への支援の在り方の研究
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

少人数による指導のため、個々の生徒の興味・関心に応じた指導ができ、指導方法の工夫・改善の一層の充実を図ることができた。
理解するのに時間がかかる生徒には、個別指導を行い、きめ細かく指導したことにより学習内容の定着と意欲の向上につながった。
少人数による習熟度別学習により生徒一人一人に応じた学習内容の指導となり、基礎・基本の確実な定着を図ることができ、生徒がわかる喜びとともに伸びる喜びを体感できる学習となった。
少人数での指導や生徒の個に応じた指導により、生徒の疑問やつまづきに速やかに対応でき、生徒の意欲を高め内容の理解へもつながった。
数学では教師だけでなくティーチングアシスタントとともに指導に当たるため、生徒一人一人の実態に応じたよりきめ細かな指導を行うことができた。
少人数による習熟度別学習への支援により、指導と評価の一体化をめざす指導の在り方を研究するよい機会となった。

2 今後の課題

授業変更ができにくいため、出張の際に自習となるクラスが出てきてしまい、進度に差が生じてしまう。
指導するクラスが多くなるため、教材研究・準備の時間がより多くかかる。
教科部会を教科の打ち合わせを綿密にしておかないと教える内容にばらつきが生じてしまい、評価方法の統一性が失われてしまう。
生徒と保護者の希望をもとにクラス分けを行うが、クラス変更の時期や措置の方法をさらに深めたい。

学力把握のための学校としての取り組み

生徒へのアンケート調査を各学期ごとに行い、授業の様子(先生の話聞く、積極的に発言するなど)を5段階で振り返らせている。
生徒一人一人がそれぞれの課題を見つけ問題解決をしていく中で、学習意欲をより高め、楽しく学べるように努力した。その成果を知るために学期ごとに生徒にアンケート調査を実施した。
定期テスト(中間・期末考査)、単元テスト、小テストの実施
荒川区立小中学校全校による学習到達度調査、3年生の到達度テストの実施
保護者へのアンケート調査による考察

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年1月30日(金)にフロンティアスクール協力校としての発表会を行い、保護者、地域の方に授業公開、報告会を行いその成果を発表した。
少人数による習熟度別学習について保護者へのアンケート調査を行い、意見等の記入をお願いすることにより、その成果や課題について保護者に考えていただいた。
年度初めの保護者会、PTA役員・実行委員会、学校評議員会を通してPRし、機会あるごとに成果や課題を聴いている。
インターネットを通して全国に発信する。